

奈良市総合計画審議会 第1部会（第2回） 会議録

1 日時 平成22年7月14日（水） 午後6時～午後8時

2 場所 奈良市役所 5階 キャンペラの間

3 出席者

【委員】伊藤忠通部会長、石川路子委員、杉江雅彦委員、舟久保敏委員、武蔵勝宏委員（欠席 緒方賢史委員）

【市職員（総合計画策定委員会委員）】

市長公室長、市長公室理事、企画部長、市民活動推進課長補佐（市民活動部長代理）

【市職員】事務局（企画政策課職員）

4 会議事項

- 1 奈良市第4次総合計画前期基本計画（案）（総論）について
- 2 奈良市第4次総合計画前期基本計画（案）（各論）について
（第7章 基本構想の推進）

※全て公開で審議。（傍聴人0人）

5 配布資料

- ・資料1 奈良市第4次総合計画前期基本計画（案）（総論）
- ・資料2 奈良市第4次総合計画前期基本計画（案）（各論）修正部抜粋

6 議事の要旨

(1) 奈良市第4次総合計画前期基本計画（案）（総論）について

- 事務局が、前回の部会での意見を踏まえて修正した点を説明。（資料1）
 - ・ゾーン別人口は削除した。
 - ・交流人口については、宿泊客数の集計方法の改訂に関して調整中のため、前回数字のままである。
 - ・3頁以降の「歴史的文化遺産」は、「歴史・文化遺産」に統一した。
 - ・重点戦略に、下線部のとおり説明文を追加した。
 - ・重点戦略2「環境」に、廃棄物に関する記述を追加した。
 - ・「観光」・「環境」に関する「雇用」については検討中である。

- ゾーン別人口は議論が出てくる可能性があるなので、削除するのはよい。重点戦略のところが大きく変わっているので、展望の文章はよいか確認していただきたい。
- 「労働力人口の高齢化」は聞き慣れない言葉だが、一般的に言われているのか。また、裏うちするデータ、グラフ等はあるか。
 - [事務局] 労働力人口は15歳以上の就業している人と就業を希望する人を指し、奈良市に関する資料はある。
- 労働力人口の注記はわかりにくい。句読点の位置を「就業者、及び就業したいと希望し求職活動をしているが仕事についていない者」とすべき。
- 労働力人口と生産年齢別人口の違いは、市民に理解してもらえるか。生産年齢別人口の説明はどこかでしているか。
 - [事務局] 1頁の表中に記載している。
- 労働力人口には65歳以上も含むのか。
 - [事務局] 含む。
 - [策定委員] 「労働力人口の高齢化」は表現としてどうか。「労働力の高齢化」ならわかる。
- 書く場合は、「労働力人口構造の高齢化」としたらどうか。高齢化に関連するデータはつくか。
 - [事務局] データはつかないが、各論の基本施策6-05「勤労者対策」に出てくる。ただ、第2部会では議論されていない。
- 「労働力人口の高齢化」をあえて記述する必要はあるか。記述の理由は何か。高齢化していても問題はないと思う。
 - [事務局] 経済基盤を説明するために記述した。
 - [策定委員] 市内部の人間が言うのは申し訳ないが、高齢化していても収入があり、増えるのであれば問題はないと思う。
- 働く人が多くなるのであれば、納税者としての意味からも良いと捉えることがで

きる。

- 重点戦略の前文になるので、1～3のどこに関わってくるか。
→[事務局] 1に関わる。前回、少子化のみとの指摘もあったので、入れている。
- 削除しても問題はないのではないか。
- 「労働力人口が高齢化すると、生産年齢人口が減少していく」ということを言いたいのではないか。
- 「人口減少、少子高齢化の加速」と書いてあり、労働人口が減少していることが読み取れれば、あえて書く必要はない。
- 「労働力人口の高齢化」は削除する。

- 重点戦略2「環境」について、「循環型社会」が加わったが、「低炭素社会」というのもあり、両者は若干違うがどうか。
→[事務局] 「低炭素社会」は、「温室効果ガスの削減」という表現の中に含まれる。

- 雇用について記述しないことについてはどうか。
→[事務局] 各論で「雇用」を扱うところがないので、書き方も含めてご意見をいただきたい。
- 第1部会は第6章「経済」の担当ではないが、総論とは絡む。施策6-01-01「観光力の強化」では、「観光客の受け入れには雇用創出効果があり、奈良市にとって雇用の機会が増える」ということまでは触れていない。奈良市として雇用の問題は施策ではないということであり、施策がなければ、ここで挙げるのは問題かもしれない。

- 重点戦略「環境」に「3R」が加わったが、関係する基本施策に4-04「廃棄物処理」がない。各論にも追加が必要。
- 基本施策4-04に「3R」の記述を加える。

- 雇用について、基本構想でも基本方向の2点目に「観光をはじめとしたビジネスモデルの創造による活気あるまち」と挙げているが、「雇用」という言葉はない。ビジネスを立ち上げる、あるいは活性化していくということになれば、雇用される人達も問題になってくるため、まったく触れないのは不自然だと思う。
- 基本構想の3つの視点、活力の視点のところ、「雇用の場や機会を計画的に創造して」と書かれている。
- ただ、「ビジネスモデルを整える必要がある」と文章が続いているので、雇用に触れないのは不自然である。
- 現状で、奈良市として雇用施策のようなものはあるのか。

→[策定委員] 観光ビジネスモデルで商工の部局が動き出している。

→[策定委員] 市長マニフェストに「コミュニティビジネスを支援します」という項目があり、商工労政課と市民活動推進課が一緒になって進めているので、コミュニティビジネスの創造で雇用の創出を図ろうということはある。担当課である商工労政課が出席していないので明言できないが、書けないことはないと思う。

- コミュニティビジネスは観光とも関係するので、リンクさせれば書けると思う。
- 重点戦略3の観光の文章の一行目の「構築することで、活性化し、」の「活性化し」の前の読点が気になる。何を活性化しようと考えているのか。
- 多分「経済の活性化」だと読んでいた。活性化には色々なものがあるが、産業振興の話なので、当然三次産業など経済の活性化につながっていく。そうなれば、雇用創出の動きにもつながり、例えばビジネスモデルとはどんなものかと考えると、「奈良市の歴史的遺産を生かす」ということで、観光につながっていく。ここをリンクすれば、雇用の創出や、市民と協働していけばコミュニティビジネスにもつながるので、そういう文章を載せれば良い。そうすれば、全体会議での「雇用の問題が抜けている」という発言にも応えることになる。

→[事務局] コミュニティビジネスの定義には、地域や社会課題に対応するほかに、地域の特性を活かすということもあるので、観光を生かしたもののなかから雇用創出されるような書き方があるとよいと思う。

- 他都市では、市民が提案したコミュニティビジネスに助成金を出して、ビジネスモデルを興しているところがある。

→[事務局] まさに、そういうものを構築しようとしていくところなので、各論に、そのようなことを書けると思う。

- 担当課と相談していただき、基本施策 6-04 のところに何か挙げられるとよい。
- 策定委員から、重点戦略「少子化対策」への意見があった。
 - ・少子化対策が「教育」に偏っている印象がある。保育の視点（駅前保育、認定保育など）を入れていただければと思う。
- 私も気になっていた。「認定子ども園」という言葉も出てこない。幼稚園型と保育園型の両方の認定子ども園があり、これからどうするかはわからないが、民主党政権は両方を一緒にすると言ってきた。
- 基本施策にはあるが、文章にないということなので一文を入れておけばよい。
- 「子育て環境の整備」という一言だけになっているということなので、具体例を付加することになる。
- 学校教育については「30人学級の導入」などが書かれているので、抽象的なものだけにならないようにする。「認定子ども園」などの言葉を入れてもらってもよい。そういうことを書き込むと、3つの重点戦略のうち「観光」が、いやに薄平たく

なってくる。活性化に関することも含め、商工との絡みでも何か記述しておかなければならない。商工の施策の内容は伝統産業や後継者育成ばかりであり、観光ということが入っておらず、セクショナリズムがそのまま出ている印象を受ける。

→[策定委員] 前回の議論の中で、観光についてはハード面の整備を充実させてはどうかという意見があり、基本施策 5-04「道路」や 5-05「市街地整備」を関連する基本施策に入れてもよいのではないかと考えている。

- 重点戦略 3「観光」に係る基本施策に 5-03「交通体系」が入っているが、各論に具体的な内容がない。

- その意味では、「環境」と「観光」はつながっているので、(それぞれに)重複して挙がっていてもよい。5-02「景観」が観光に挙がってもよいと思う。重点戦略に関わる施策の見落としがないか確認していただきたい。

→[策定委員] 気になるのが「環境」のところで、第 2 部会で「地球温暖化対策に関わる施策の記述が弱い」という意見があった。重点戦略 2「環境」に係る基本施策は 3 つしかないが、「自然環境」や「生活環境」をすべて取り入れると、重点戦略に入れる施策があると思う。先ほど 4-04「廃棄物処理」を追加したが、それ以外に 4-03「生活・環境衛生」も入ってくるのではないか。

- 重点戦略の本文中にある「奈良に住みたい、これからも住み続けたい」には、生活環境が優れているという意味があるので、入れても良いと思う。

→[策定委員] 加えて、5-03「交通体系」、5-06「公園・緑地」、5-11「河川・水路」、5-01「土地利用」も入るのではないかと思う。

- そうなるとたくさん出てきてしまう。優先順位とか重要度の高いものに絞らないと、「重点戦略」にならなくなる。(関係する基本施策から)漏れていても関係があると考える必要がある。

- 基本計画が実施計画につながっていく。基本計画を柱に据え、具体的にどのような施策があるのかは網羅していくことになるので、実施計画をつくる時にその点の相互交流をしないといけないと計画が進まない。

- それは、各論の施策 7-04-01「効率的な行財政運営」の中での、今までのような縦割り重複行政をなくしていこうということにつながる。もう少し関連性の深いものはあげても良いが、全部あげる必要はない。

→[策定委員] 先ほど申し上げた「生活・環境衛生」、「廃棄物処理」と「交通体系」を取り込んでいきたい。

- 事務局が、第 3 部会秋吉委員から重点戦略に対する意見があったことを報告。
- ・ 第 3 部会において、秋吉委員から「基本構想の冒頭で「少子高齢化」の話をしているが、重点戦略になると「少子化対策」になって高齢者の視点が抜けている」と指摘があった。また、医療・保健・福祉の 3 点をセットで考えるべきではないかという意見もあったので、報告させていただく。

- 奈良市の根本的な部分として人口維持の問題があり、少子化問題が先だと考える。高齢者福祉を無視するのではないが、奈良市として少子化対策に力を入れ、同時に高齢者に対しても施策を行う。秋吉委員は、実際に高齢者の分野に携っておられるので、関心が高いのだと思う。
→[事務局] その意味で、重点戦略の冒頭の部分に、下線部のとおり「今後増える高齢者が心身の健康を維持しながら」と加筆した。
- (高齢者への) 考慮はしていくのだが、当面は少子化の方に力を入れていくと理解していただけるとよい。
- 今回、「高齢者の福祉対策を十分にするために人口確保が必要」という主旨で書かれており、これが一つの答えと理解した。逆に、(高齢者を) ないがしろにしないために、人口規模と生産年齢人口比率を維持しないと施策ができないので、一番重要なものに位置づけるというのは一つの言い方だと思う。今回、加えていただいてすっきりした。
- この文章が入ったから、少子化対策のところにあえて入れなくても良いと思う。また、施策 3-04-01「高齢者福祉の充実」に「高齢者とともに歩むまち奈良」宣言の趣旨をふまえ、「奈良市老人保健福祉計画及び介護保険事業計画」に基づき」という流れがあるので、全く載せないで「少子化対策だ」とは言えないと思う。(施策 3-04-01 で) ここまで書いた上で、より重点・優先的な戦略として「少子化対策」をしなければならないという言い方をすれば、納得していただけると思う。
- 全体の計画の中で、限られた財政資源の中ではあれもこれもできないので、「選択と集中」を行っていくというニュアンスが伝わるように組み立てれば、ご理解いただけるのではないかと。

(2) 奈良市第4次総合計画前期基本計画(案)(各論)について

7-01 市政情報の発信・共有、7-01-01 開かれた市政の推進

- 策定委員(市長公室長)が、修正点を説明。
 - ・目標の達成度を評価する指標にホームページのコンテンツ数、コールセンター受付件数を追加し、関連して前の頁の現状も加筆した。
 - ・コンテンツ数は300件/年増の実績から、単に増加させるのではなく、コンテンツの整理も含めて現状の5,230から7,000に設定した。
 - ・コールセンターは、平成19年から始めたもので急激に伸びているが、限界があるので、去年から今年の伸び率(4%/年)をもとに、現状の17,000から20,000に設定した。
 - ・施策の展開方向の①市政情報の提供に、内容を追加した。
- 「コンテンツ」と「ワンストップサービス」には、注釈を入れる方がよい。特に、

ワンストップサービスはよいことなので、きちんとアピールした方がよい。
→[策定委員] 対応する。

7-02 市民参画・協働、7-02-01 市民との協働による市政運営

- 策定委員（市民活動推進課長補佐：市民活動部長代理）及び事務局が、修正点を説明。
 - ・現状と施策の目標に、事業者の社会貢献活動に関する記述を追加した。
 - ・目標の達成度を評価する指標の「協働事業の件数」を、具体的な内容を示す「市民参画及び協働によるまちづくり推進計画実施計画の事業件数」に修正した。
 - ・施策の展開方向①「市民参画及び協働の推進」に、上記の推進計画実施計画を説明する文章を加えた。
 - ・計画の達成度を評価する指標の「包括的連携校数」の目標値を3から5に修正した。

- 協働事業に関してはわかりやすくなった。関連する条例・計画に、制定年等を記載した方がよいのではないか。
→[事務局] もし制定年等を記載するのなら、他の章のすべての施策について同様に記載することになるが、古い条例、計画についても制定年は必要か。
- 法律でも、一部を改正された法律などずっと履歴はあっても、当初制定年しか出ない。
- 前言は撤回する（制定年度は記載しない）。

7-03-01 情報化の推進

- 事務局が、修正点を説明。
 - ・施策の展開方向①「電子自治体の推進」のICTの活用について、「システムの項目の拡大と利用率の向上」を追記した。

- 委員からの異議なし。

7-04-01 効率的な行財政運営

- 策定委員（市長公室長及び市長公室理事）が、修正点を説明。
 - ・目標の達成度を評価する指標には、前回同様、職員数を挙げている。提案いただ

いた人件費比率（退職金除く）については検討しているところだが、実施計画で会計規模や事業規模が決まらなると決められないため、財政面の指標と同時に挙げたいと考えている。

- ・施策の展開方向②「行政改革の推進」に、地域に様々な施設があり、相当年数も経っていることから、公共施設の統廃合・機能の変更などを追加した。ただ、文末は「検討します」では少し弱いので、「進めます」と改めたい。
- ・本来は総務部の担当だが、代理で説明する。施策の展開方向①「健全な財政運営」について、市債の発行の抑制は、事業費の関係で簡単にできると限らないため、「有利な市債を活用する」という文言を追加した。

- 「有利」は、一般的には「市民に有利な」という意味で使っているのだと思うが、経済用語では「利子のつく」という意味になるため、表現を改める必要がある。
→[策定委員] 財政担当部局と調整して修正し、次回報告する。
- 市債には、公営企業債は入らないのか。
→[事務局] 公営企業は入らない。
- 計画の中に公営企業（水道局）は入っている。今、水道局では低利な借換などを進めているので、他の手法も用いて市債管理をしっかりとすることを表現する方がよい。これだけでは、交付税算入措置のある市債に限られてしまう。
- 先ほどの「有利な」の表現は気になったが、「交付税算入措置のある有利な市債、及び借換などを活用し、」としてはどうか。
→[策定委員] そのようにする。

7-05-01 広域行政の推進

- 事務局が、修正点を説明。
 - ・施策 7-05-01 「広域行政の推進」は、削除したい。
- （広域行政については）施策 7-04-01 「効率的な行財政運営」の中に入れるという話ではなかったか。
→[事務局] 入れようと考えたが、広域行政に対する取組がほとんど考えられず、バランスが悪いので、施策 7-04-01 の展開方向②の2点目の「行政サービスの質の向上とコストの削減を図ります」という部分に意図が含まれると判断し、変更なしとした。前回は、「広域的な課題について調査・研究を進めます」と書いたが、具体的にはなかった。
- 奈良市が近隣市町村を助けるというケースが多く、奈良市として、県や近隣の市町村と一緒にやる施策がないのか。
→[事務局] 一緒にやっていることはあるが、奈良市として必要とするものは思いつかなかった。今の人口規模と都市機能を持っていると、（広域行政に）求め

ていくものはなかった。

- 周りの市町村が奈良市と一緒にやりたいと考えていることが多いと思うが、負担金を徴収することによって、市の運営の助けになることはないのか。例えばごみ処理場等、施策 7-04-01「効率的な行財政運営」に書き込むことはできないのか。
→[事務局] ごみ処理は限度に達しており、他市町村を受け入れる余裕はない。
- 奈良市のサービスを市外の住民等が利用することがあるはずで、費用を持ってもらうことで運営面のメリットがあるのではないか。市外住民の料金割り増しなどはないのか。
→[事務局] 基本は奈良市民に対するサービスを提供することであり、料金の割り増しはあるが、状況は把握しづらい。
- 民間活力の導入と同じ並びで、広域行政の継続による質の向上とコストの軽減があるかと思っただが、設備の負担について費用を求めることも想定できないのであれば、無理に書く必要はないかとも思う。
- ゼロではなくやっているの、「推進する」という前向きな文章は書いておくべき。
- 広域行政の目的を、効率的な行財政運営の手法として考える方向で再検討すること。指標はなくても構わない。
→[策定委員] 観光、消防、救急などで協力し合えるところがあるかと思う。
- 他の自治体との連携、コストを下げることのほか、施策の効果を上げることも広域行政の一つなので、別立てにすることが難しければ、施策 7-04-01「効率的な行財政運営」に入れてもらいたい。

その他：指標全般

- 各論の目標の達成度を評価する指標について、それぞれ目標値があるが、増えればよいものと減ればよいものが混在しており、市民に誤解を招く可能性がある。また、実数と割合（比率）も混在しているので、統一しておいた方がよいと思う。
- 指標にもよるが、率にすると含みが出てくる。例えば、職員数が増えても、人件費比率は下げることができる。
- 単位を実数にするか割合にするかは、必要なものが選択されれば構わない。しかし、目標値には上がるのがよいものと、下がるのがよいものがあり、同じ方向に合わせることは難しい。「割合の減少」や「数の増加」というように、目標含みで指標を書くしかないのだろうか。
→[事務局] 良いのが上がることと下がることのどちらかを判別することが問題なのであれば、記号をつける方法も考えられる（△、▽など）。
- 意味がわかればよいという程度のものである。例えば、施策 2-01-02「幼児教育の充実」での指標「規模の適正化を必要とする幼稚園」の現状 12、目標 0 はわかるが、施策 3-02-03「子育てと仕事の両立支援」の指標「整備が必要なバンビーホー

ム数」の現状 17、目標 27 となると、わからなくなる。

- 施策 2-01-02 の指標「私立幼稚園運営助成金の助成対象」の現状 14 が目標 15 になるのがよいかどうかは、一目では判断しづらい。助成金がなくてもやっていけるのなら減る方がよいし、公立を私立化していくのなら増えるのがよいことになる。幼児施設に対する公立・私立の運営の考え方、行政・民間の役割に対する考え方などを理解した上でないと判断できない。だから、どこかに方向性をしっかり書いておかないといけない。
- 目標の達成度を評価する指標と施策の関係を示せば、例えば、施策 2-01-02 では「幼稚園園舎の耐震化進捗率」があって、施策の展開方向④に「計画的な耐震改修を行う」とあるので、54%から 90%に上がることがわかる。
- 確かに読めばわかるが、一目でわかるようにすべきではないか。
- 私も、「私立幼稚園の運営助成金」の施策がどこに書いてあるのかよく解らない。書いているところを示せば、わかりやすいかもしれない。
- 指標の最後に、対応する展開方向の番号を示してあれば、市民に対して親切ではある。全部の指標と展開方向が対応していればよいが、どうか。
→[事務局] 対応していないものはある。指標は3つ程度にしているが、施策の展開方向は最大5つあり、一対一ではない。また、複数の部局にまたがっている施策もあり、総じての指標もあるため、施策の展開方向には厳密にはあてはまらないものがある。
- 施策の展開方向と指標の関係がわかれば、上がる、下がるがなぜよいのかがわかるので、一番よい方法だと思う。
→[事務局] 目標値の達成度を評価する指標の後ろに展開方向の番号を示す方向で検討する。この場合、展開方向にはあるが指標はないものや、複数の展開方向が同時に関係するものなど、関係のわかりにくいものがあるかもしれない。
- 基本施策の内容を、市民に見える化、可視化する試みである。関係を整理できれば、目標値と施策の関係を示した総合計画は見たことはないので、画期的かもしれない。

その他：グラフ全般

- 各論で、グラフや数字が入っている施策と全くない施策があり、中にはその項目に必要でないようなグラフもある。まちまちであるため、統一しておいた方がよい。
→[事務局] 施策の担当部局での検討作業において、定型の様式内に必要事項をまとめるのを大原則とし、スペースのある場合のみ補足する図表を挿入したた

めに発生した現象である。スペースがあり、かつ担当部局に出したいデータがある場合はグラフ等が存在する。

- 全部を統一様式にすることは難しいと思うが、できる限り統一して欲しい。
- グラフに関しても棒グラフ、折れ線グラフなどまちまちだが、最終的に統一されるのか。

基本施策 2-03「生涯学習」のグラフ「奈良市立図書館貸出件数推移」は、全数と各館を一緒に書いているので、中央、西部、北部の各館がどうなっているかわからない。

→[事務局] 計画書については、現時点では2色刷りを予定しており、印刷の段階では（グラフの様式を）ある程度揃えたいと考えている。また、「奈良市立図書館貸出件数推移」のグラフについては、次回審議会には間に合わないと思うが、見やすくなるよう修正する。

- （冊子を）通して見た時にわかりやすくする。

その他：各部会状況報告（第2部会：伊藤部会長、第3部会：杉江委員）

- 伊藤部会長が第2部会について、杉江委員が第3部会について、それぞれ審議状況を報告。
 - ・第2部会では、基本施策 4-02「自然環境（保護と継承）、環境保全」で、対象とする環境は「自然環境」ではなく「地球環境」で、タイトルが内容と整合していない点が指摘された。
 - [事務局] 「自然環境」は削除するが、「地球環境」なのか「環境保全」なのかは調整中であり、現時点では担当課から、「環境保全」でいきたいという回答を受けている。
 - ・（総論の）重点戦略2「環境」では、「奈良市の大きな魅力である緑豊かな自然」と書いてあるので、自然環境の話がなくなるのは重い。
 - [事務局] 第2部会の緑地に関係して、緑をうたっていけるかどうか議論の途中である。また、基本施策 5-02「景観」の中で、景観としての自然環境を保全していこうとしている。
 - ・春日原生林の担当はどこになるか。
 - [事務局] 文化財の関係で、基本施策 2-04のところになる。
- ・第3部会では、基本施策 2-02から 2-06、3-01から 3-04までを議論したが、大きな問題はなく淡々と進んだ。
- ・重点戦略の「少子化」は教育が中心になっているが、基本施策 2-01「教育」は第3部会の次回会議で検討することになっている。
- ・子育ての施策は 3-02-01になるが、最近毎日のように出ている児童虐待について、

「絶対に許さない」というきつい文章にした方がよいという発言があった。

- ・施策 3-02-02 では「ひとり親家庭」という言葉を使っているが、「母子家庭が中心でも、増えている父子家庭も考えていかなければいけない」、「目標の達成度を評価する指標が母子しかない」という意見があった。指標については、制度が「母子」となっており、今後父子家庭にも補助していく方向だが、現時点では（制度が）ないということであった。
- ・基本施策 3-03 「障がい者・児福祉」では、奈良市としての特徴が欲しいという意見があった。
- ・第2部会では、まだ重点戦略になる基本施策 6-01 「観光」には入っていないが、議論が出てくると思う。

- 第1部会は総論を担当しているので、各部会からあがってくるものとの整合性を考え、先ほどの環境のように漏れているものがないようにしていかなければならない。
 - 都市基盤（第5章）はどうか。
→[事務局] 都市基盤は5-05まで進んだ。
 - 基本施策 5-11 「河川・水路」の写真は、とても多自然型の河川には見えない。
 - 写真を載せる時には、イメージが重要なので気をつけなければならない。
 - 基本施策 5-07 「住環境」の写真は、戸建・マンションの不動産写真のように見える。
→[事務局] 写真は市営住宅である。
-
- 次回の第1部会は、7月19日（月）18時から開催する。

以上